

広報広聴会議

日 時 令和7年1月30日（木）午後1時～
場 所 全員協議会室

1 各部会の振り返り・申し送り事項について

（1）広報部会から報告

（2）広聴部会から報告

2 広報広聴会議の申し送り事項について

3 その他

【広報部会】

今年度（令和6年度）の振り返り／来期への申し送り

委員名	今年度の振り返り／来期への申し送り事項
三上部会長	☆令和6年度の広報活動方針を掲げて振り返りたいと思う。 <u>1. 広報活動の目的</u> ① 定例の各議会や委員会はじめ、議会活動の内容を市民に分かりやすく情報提供する。 →予算、決算をはじめ、市民への説明責任を果たすべき議会での議決内容とそれに至る審査・審議の経過などを、議会だよりで、要点をしぼって知らせることができていたと思う。引き続き、分かりやすい情報提供に努めていくことを何よりも重視とする。議会だよりも Facebook も、事後報告が中心となっているので、Facebook では、議会（一般質問、本会議、委員会など）の開催告知、案内、傍聴・視聴呼びかけなどにも力を入れていきたいと思う。 ② 議会の在り方や、議会の役割、議会・議員の活動などについて、市民に興味・関心を持ってもらい、理解と協力を得る。 →二元代表制の一翼を担う議会の権能や、議案審査の手順、政策提言など、その都度、お知らせをしてきた。今年は広聴部会が企画する新しいスタイルでのわがまちトーク開催に全面協力して、議会だよりでの告知、当日の撮影等の記録、議会だよりでの報道に力を入れて、紙面も割いてきた。また、新たな議会の取組である議会モニター制度にもスポットを当て、紙面を割いて報道してきた。これらが軌道に乗るまでは引き続き報道するとともに、多くの市民に関心を持ってもらい、参加が増えるよう、広報活動でも力点を置いて取り組んでいきたいと思う。 ③ 市民ニーズや市民の声をたえずリサーチして広報活動（特に議会だより編集）に生かすとともに、それらを議会活動にどのように反映したかを市民にフィードバックさせる。 →議会だよりについての市民の声のリサーチを今年はあまりできなかった。議会だよりに対する意見・要望を聞き取る機会を次年度は設けていきたい。 <u>2. 広報活動の基本方針</u> ① 定例の各議会を客観的・かつ正確に、議会としての立場から報道することを中心にした議会だよりを、さらによりよいものに改革して編集・発行する。（議会だよりの編集・発行については別紙で詳細に提案） 議会だよりの活用

（配布場所・意見収集の手段の開発）についても改革を進める。

→配布場所の開拓、自治会未加入の市民の皆さまにも議会だよりを読んでもいただける手段など、検討すべきことがあるが今年は手を付けられなかった。議会だよりの活用について、次年度は少しずつ歩を進めていけたらと思う。

② 議会だよりとともに、議会活動の広報手段として、SNS発信を手がける。当面はFacebookの亀岡市議会ページの投稿を続けて行っていく。Facebookの投稿の基本的ルールやマニュアル、役割分担を明確にする。また、新たなツールの開発・研究を行う。

→前述のとおり、事後報告が中心となっているので、Facebookでは、議会（一般質問、本会議、委員会など）の開催告知、案内、傍聴・視聴呼びかけなどにも力を入れていきたいと思う。副委員長など、発信の役割分担は整えつつも、事前告知や案内については、発信権限のある議員は自由に、被ってもいいので発信してはどうか？

③ 委員会などのYouTube配信についても積極的にに関わり、撮影、簡単な編集、配信を部会としても担当できるよう、それらの技術を習得する。

→月例委員会の録画配信を副委員長などの尽力によって、ようやく進みだした。今後も続けていきたい。

④ 絶えず広聴部会との連携をとり、議会（議会運営委員会）との間で、「報告」「連絡」「相談」を密にとる。

→おおむねしっかりと連携できていたと思う。ただ、議会だよりの3ページなどは後追いしていることが多い。年4回、議会だよりの3ページは、広聴部会が年間計画を立てて、ページの企画を行っていただくことにしたいと考える。

⑤ 亀岡市のホームページ上の「亀岡市議会」のページの更新についても意見や提案ができるように、広報部会としても関わっていく。

→これについては問題意識を持ちながらも進められていない。積極的にアイデアを集めて担う人を決めて、少しずつでも改革できればと思う。

⑥ その他、あらゆる角度・視点から広報活動に関わるアイデアや工夫を部会で出し合っていく。

→議会だよりの編集作業の議論で追われてしまい、様々なアイデアや工夫を出し合う時間が取れなかったが、やろうと思えばできたはずである。部会長の責任である。

3. その他

① 本日の議論をもとに、広報部会の活動について広報広聴会議で報告し、共通理解を得る。

② 議会だよりをはじめとする広報活動の改革について、広報部会で検討を行い、新たな計画については広報広聴会議から議会運営委員会に報告・提案して合意をもって進める。

→①②について、大塚委員長に尽力いただき、一定の改革を進めることができたのではないかと。

③ 広報部会のグループLINEを有効活用して、部会以外でも連携をとる。
(担当事務局もグループに入る)

→グループLINEで意見交換、情報提供などができた。

☆続いて議会だよりの編集について振り返る。

▽議会だよりの編集について（2024年4月15日）

1. 編集の目的

① 定例の各議会の内容を市民に分かりやすく情報提供する。

② 議会の在り方や、議会の役割、議会・議員の活動などについて、市民に興味・関心を持ってもらい、理解と協力を得る。

③ 広報広聴会議の活動の結節点、広報広聴活動を知らせるツールとして、広聴活動の紹介、収集した市民からの声・意見の紹介などを行う。

→広報活動方針に同じ

2. 編集にあたっての共通認識

① 広報部会で編集するが、広報広聴会議として発行すること、発行責任は議会・議員全体にかかることを認識して編集にあたる。そのためには、絶えず広聴部会との連携をとり、議会（議会運営委員会）との間で、「報告」「連絡」「相談」を密にとる。

→今年度も議員全員の創意として議会だよりが編集発行されているという自覚のもと、公平公正で共通理解ができる紙面内容を心がけた。

② 議会だよりは、「市民にページを開いてよんでもらってナンボ」である。市民が読んでみたくなる紙面づくりの努力なしに広報活動は成り立たない。

③ 上記のために、以下のような点を留意する。

○ 視覚に訴える工夫を行う。ユニバーサルフォントの使用、色弱の方でも読めるような色の配慮も。

○ 全頁カラー・穴なしになることを有効に活用（これまで墨一色のページに

どんな色付けを?)

→全頁カラーの利点を生かした編集ができた。例えば、委員会の色分けなどは、どの号も統一感をもってできていると思う。カラーになっても見やすさを追求する努力がなされていると思う(印刷会社の努力が大きい)。見出しなどには色を付けてもいいが、本文は黒色で統一している。これも基本として、今後も続けていけばよいと思う。せっかくのカラーなので、写真やイラスト、キャラクターなどを効果的に取り入れることを今後も工夫していけばよいと思う。

○ 表紙の工夫(表紙で読者を惹きつける「フォーカス」に工夫を)

→やりだしたものの、いつも苦心する。しかし、取材撮影を含め、よい写真の表紙になるよう、今後も議員が足を運んで、伝えたいことを伝わりやすい写真で伝えられるようにできればよいと思う。

○ 掲載ページ順序の工夫(読みやすいもの、注目されるもの、重要なものから順に)

→2ページの役割が、とても大事であること、子どもにも分かってもらえるような、その月の議会の概要を分かりやすく伝えるものであること、そのために見出しや、かめまるくんとしんがくんとの掛け合いにおける役割分担や、各ページへ案内するような、簡単で分かりやすく誘導する工夫について、部員の中でかなり共通理解ができてきたと思う。

○ ページレイアウトの工夫

・写真・イラストの効果的配置

→写真の大きさや向き、位置も重要。

→写真には効果的なキャプションをつける。

→イラストやカットは癒しや和みを与える。

→かめまるくん、しんがくんキャラクターの活用。議員が表現しにくい内容も代弁してくれる。

・見出しの工夫

→大きく、短く、イメージしやすいものを。

→長い文章には小見出しをつけて分ける。小見出しを読めば要約されているというように。

→読者は見出しだけ見ていくので、スルーされたらおしまい。

・リード及び本文の工夫

→客観的な報道で、簡潔なリード文(リード文を読めば概要がつかめる)で誘導

※ 例・・・5W1H→When(いつ)、Where(どこで)、Who(だ

れが)、What (なにを)、Why (なぜ、なんのために)、How (どのように)

※ できる限り、要点以外の無駄な言葉を削ぎ落して、字数を少なくする。結論が分かりやすくする。結論のない文章では読者は、消化不良になる。

→読みやすさ、見やすさを優先。文字を大きく、少なく。

※最低でも12ポイント(フォントサイズ)。この間、それまでの字数を7～8割に削減する努力をしてきた。

※太字や囲みも有効に活用

→市民目線で、理解しやすい言葉を使う。行政用語で済ませない。

※どうしても言葉を変えられないときは、解説文を挿入など。

○ 余白の有効活用(字が大きいと読みやすいが、詰め詰めだと疲れる。文字が小さくなくても余白をつくるほうが読みやすい場合もある)

※読者の目が紙面を追う順序は? 写真・イラスト➡大見出し➡リード文➡小見出し➡本文

詳細記載の「本文」まで読ませる見出し・リードのレイアウト工夫を

※左開き縦書きの紙面で、読者の目が紙面を追う順序は? 右上➡左下(斜めに読む)

→左上が結構盲点になる。囲み記事

→これら紙面づくり、編集の基本を、部員みんなが理解し、せっかく作ってもらった原案も、これらに沿って直していくことに合意いただき、協力いただいた。感謝申し上げます。

④ 絶えず市民を意識して、情報収集に努める。

○ 市民の声が載っていると興味が持てる。

○ 賛否両論のバランスを配慮する。

○ 広聴部会の活動を必ず紹介する。広聴部会は3か月に一度、必ずネタを作ってください!

○ 基本的に3ページは、広聴部会の活動を基に話題・記事を組み立てる。

→前述のとおり、次年度から、議会だよりの3ページは、広聴部会が年間計画を立てて、ページの企画を行っていただくことにしたいと考える。

3. 当面の議会だよりの編集方針

1 ページ・・・表紙

○ これまで継続していた週刊誌風表紙のスタイルを一新したが継続できるように

➡その議会で焦点(フォーカス)となった案件に関連する写真と内容に導入する見出しに

○ 当面、タイトルは今のものを継続するが、よりよい表紙にふさわしいタイ

トルや名前があれば

○ 左開きの冊子にふさわしい縦書きのタイトルも視野に入れる。

2 ページ・・・「かめまるくんとしんがくんの議会トーク」

○ ■月議会の概要がよくわかるもの、子どもでも読んでわかるものを意識して

○ あまり詰め込まない。余白を十分にとる。

3 ページ・・・基本は広聴活動のページ 場合によっては議会トピックスとして特集を組むこともあり

○ 議会活動や議員について興味関心、理解を得る内容に

○ 広聴部会の活動を中心に上げる。

4 ～ 5 ページ・・・従来から特集ページとしてきた。

○ 予算、決算の議会の時はその特集とし、内容も市の広報ではない議会の徹底審査の様子が伝わるものに工夫してきた。予算、決算でない議会の時（6 月議会、12 月議会）は、議員や議会活動についてテーマを決めて掲載してきた。（教えて議員さん、子ども議会など議会の取り組み、わがまちトークなど市民との交流、市民からの投稿、作品紹介、市民の声・意見の掲載など）

6 ～ 7 ページ・・・

○ 常任委員会の審査報告 ○ 討論 ○ 議決結果 ○ 議決内容 等

→各委員（議員）、とりわけ広報広聴会議のメンバーと、担当の事務局職員には、短くて効果的な見出しの工夫をお世話になりたい。

8 ～ 15 ページ・・・

○ 各議員の一般質問（※3 月議会は6 会派の代表質問を大きめのスペースをとる）

16 ページ・・・

○ ■月議会を終えて（議長・副議長・監査が順番でしていたが、今後どうするか？）

○ 議会を傍聴して（これまでは、各会派に順番で依頼。コロナ禍ではネット中継視聴の感想）

➡次号からは議会モニターから順次コメントをもらったらどうか？

→「議会を傍聴（視聴）して」を議会モニターに依頼して寄稿いただいた。目標通りできた。

○ 次回議会日程等、お知らせ ○ 編集後記は掲載しない

その他

	→この「編集にあたっての共通認識」の部分は、次年度も最初にみんなで学び合いたいと思う。また、見出し、リード、本文、写真、イラストなどの役割と相互関連を法則的にとらえると、よりよい広報紙になると思う。また、議会事務局の全職員にも、編集心得や技術を共有してもらい、議員が代わっても的確なアドバイスをしていただくようお願いする。
竹内副部長	●今年度の振り返り 目的意識をしっかり持ち、議会だより編集に力を注いだ。新しい表紙（フォーカス）や誌面のオールカラー化など充実していく一方で、活動の大半が議会だよりの編集が中心だったため、広報全体のことへ意識を向けることが少なかった。そんな中でも広聴の活動をサポートしたり、新しい取組も行ったが、今後さらに SNS を含めた広報戦略、広報活動に力を入れていく必要があると感じる。 また、市民の声に耳を傾ける（リサーチ）ことや、その声を活動に反映させていくことは必要であるが、仕組みづくりを含めて明確にできていない部分があり、今後の課題と感じる。また、広聴部会とさらに連携（連動）していく必要もあると感じるため意識していきたい。 ●来期への申し送り事項 【議会だより編集】 ・ 目的は市政ではなく議会活動を市民に分かりやすく発信すること ・ 市民目線で議会の今を伝える（言葉選びや表現） ・ ページごとに担当を分けているため編集作業は別々になるが、全ページに一貫性を持たせてほしい ・ オールカラーになったので写真やイラスト、色分けなどカラーのよさを生かした紙面作りをしてほしい ・ 表紙は今期に「フォーカス」を軸にしたものに変更している。今後、キーワードになる言葉を筆文字などで大きく表記するなどの案も出ているため、来期メンバーで再考してほしい。インパクトのある表紙に期待する。 【SNS 発信】 ・ Facebook や YouTube など SNS を使った発信も行っているが、まだ「とりあえず発信している感」がある（手をかける時間と労力も課題）ため、どのツールを、誰に向けて、どのように発信するのかなど追求してほしい。 ・ 議員個人のアカウントでも発信しているため、うまく連動させるのもありである。

	・会派の視察報告は現在、市議会の公式 Facebook では投稿していないが、公式 Facebook で出してもいいのでは？と思う。 ・ホームページのリニューアルなどを含めて議会運営委員会（議会活性化の取組について）などで出た課題もあるため精査して実現させてほしい。
法貴委員	今年度、広報部会として、議会だよりの充実を図り、デザインの見直しや記事内容の精査を行い、より分かりやすく、親しみやすい紙面づくりの作成を念頭に活動してきた。特に、市民が関心を持ちやすい政策や取組を特集し、議会の活動を身近に感じてもらえるよう工夫してきた。また、広聴部会の活動にも広報部会として参加し、市民とのコミュニケーションを図り、市民の声を反映させた広報活動の改善に努めてきた。 来期も議会だよりのツールを使用し市民に何を伝え、どのように感じていただきたいかを意識して作成していただきたい。また、広報のデジタル化は進んでいるが、高齢者などデジタル環境に不慣れな層への配慮も必要である。紙媒体や直接対話の機会を大切に、全世代に対応する広報活動に取り組んでいただきたい。
梅本委員	▽議会だよりの編集について（2024年4月15日） ④絶えず市民を意識して、情報収集に努める。 ○市民の声が載っていると興味を持てる。 ○賛否両論のバランスを配慮する。 ○広聴部会の活動を必ず紹介する。広聴部会は3か月に一度、必ずネタを作ってください！ ○基本的に3ページは、広聴部会の活動を基に話題・記事を組み立てる。 →広聴部会の活動を紹介するにあたり、広報部会として、編集上の責任を持つために一部または全体の編集に手を加えることはあらかじめ広報部会に承知していただいた上で、広聴部会の伝えたい内容が十分掲載に反映されるためにも、広聴部会からの報告を「議会だよりの編集」の概要をもとに掲載内容を精査いただいて提出していただく方がよいように思う。

広報活動方針

1. 広報活動の目的

- ① 定例の各議会や委員会はじめ、議会活動の内容を市民に分かりやすく情報提供する。
- ② 議会の在り方や、議会の役割、議会・議員の活動などについて、市民に興味・関心を持ってもらい、理解と協力を得る。
- ③ 市民ニーズや市民の声をたえずリサーチして広報活動（特に議会だより編集）に生かすとともに、それらを議会活動にどのように反映したかを市民にフィードバックさせる。

2. 広報活動の基本方針

- ① 定例の各議会を客観的・かつ正確に、議会としての立場から報道することを中心にした議会だよりを、さらによりよいものに改革して編集・発行する。（議会だよりの編集・発行については別紙で詳細に提案）議会だよりの活用（配布場所・意見収集の手段の開発）についても改革を進める。
- ② 議会だよりとともに、議会活動の広報手段として、SNS発信を手掛ける。当面は Facebook の亀岡市議会ページの投稿を続けて行っていく。Facebook の投稿の基本的ルールやマニュアル、役割分担を明確にする。また、あらたなツールの開発・研究を行う。
- ③ 委員会などの YouTube 配信についても積極的にに関わり、撮影、簡単な編集、配信を部会としても担当できるよう、それらの技術を習得する。
- ④ 絶えず広聴部会との連携をとり、議会（議会運営委員会）との間で、「報告」「連絡」「相談」を密にとる。
- ④ 亀岡市のホームページ上の「亀岡市議会」のページの更新についても意見や提案ができるように、広報部会としても関わっていく。
- ⑤ その他、あらゆる角度・視点から広報活動に関わるアイデアや工夫を部会で出し合っていく。

3. その他

- ① 本日の議論をもとに、広報部会の活動について広報広聴会議で報告し、共通理解を得る。
- ② 議会だよりをはじめとする広報活動の改革について、広報部会で検討を行い、新たな計画については広報広聴会議から議会運営委員会に報告・提案して合意をもって進める。
- ③ 広報部会のグループLINEを有効活用して、部会以外でも連携をとる。（担当事務局もグループに入る）

議会だよりの編集について

1. 編集の目的

- ① 定例の各議会の内容を市民に分かりやすく情報提供する。
- ② 議会の在り方や、議会の役割、議会・議員の活動などについて、市民に興味・関心を持ってもらい、理解と協力を得る。
- ③ 広報広聴会議の活動の結節点、広報広聴活動を知らせるツールとして、広聴活動の紹介、収集した市民からの声・意見の紹介などを行う。

2. 編集にあたっての共通認識

- ① 広報部会で編集するが、広報広聴会議として発行すること、発行責任は議会・議員全体に係ることを認識して編集にあたる。そのためには、絶えず広聴部会との連携をとり、議会（議会運営委員会）との間で、「報告」「連絡」「相談」を密にとる。
- ② 議会だよりは、「市民にページを開いてよんでもらってナンボ」である。市民が読んでみたくなる紙面づくりの努力なしに広報活動は成り立たない。
- ③ 上記のために、以下のような点を留意する

- 視覚に訴える工夫を優先。
- 全頁カラー・穴なしになることを有効に活用（これまで墨一色のページにどんな色付けを？）
- 表紙の工夫（表紙で読者を惹きつける「フォーカス」に工夫を）
- 掲載ページ順序の工夫（読みやすいもの、注目されるもの、重要なものから順に）
- ページレイアウトの工夫

・ 写真・イラストの効果的配置

- 写真の大きさや向き、位置も重要。
- 写真には効果的なキャプションをつける。
- イラストやカットは癒しや和みを与える。
- かめまるくん、しんがくんキャラクターの活用。議員が表現しにくい内容も代弁してくれる。

・ 見出しの工夫

- 大きく、短く、イメージしやすいものを。
- 長い文章には小見出しをつけて分ける。小見出しを読めば要約されているというように。
- 読者は見出しだけ見ていくので、スルーされたらおしまい。

・ リード及び本文の工夫

- 客観的な報道で、簡潔なリード文（リード文を読めば概要がつかめる）で誘導
 - ※ 例・・・5W1H→When（いつ）、Where（どこで）、Who（だれが）、What（なにを）、Why（なぜ、なんのために）、How（どのように）
 - ※ できる限り、要点以外の無駄な言葉を削ぎ落して、字数を少なくする。結論がわかりやすくする。結論のない文章では読者は、消化不良になる
- 読みやすさ、見やすさを優先。文字を大きく、少なく
 - ※ 最低でも12ポイント。この間、それまでの字数を今の7～8割に削減する努力をしてき

た。

※太字や囲みも有効に活用

→市民目線で、理解しやすい言葉を使う。行政用語で済ませない。

※どうしても言葉を変えられないときは、解説文を挿入など。

- 余白の有効活用（字が大きいと読みやすいが、詰め詰めだと疲れる。文字が小さくなっても余白を作るほうが読みやすい場合もある）

※読者の目が紙面を追う順序は？ 写真・イラスト→大見出し→リード文→小見出し→本文
詳細記載の「本文」まで読ませる見出し・リードのレイアウト工夫を

※左開き縦書きの紙面で、読者の目が紙面を追う順序は？右上→左下（斜めに読む）

→左上が結構盲点になる。囲み記事

④ 絶えず市民を意識して、情報収集に努める。

- 市民の声が載っていると興味が持てる。
- 賛否両論のバランスを配慮する。
- 広聴部会の活動を必ず紹介する。広聴部会は3か月一度、必ずネタを作ってください！
- 基本的に当面3Pは、広聴部会の活動を基に話題・記事を組み立てる。

3. 当面の議会だより編集方針

1P・・・表紙

- これまで継続していた週刊誌風表紙のスタイルを一新したが継続できるように
➡その議会で焦点（フォーカス）となった案件に関連する写真と内容に導入する見出しに
- 当面、タイトルは今のものを継続するが、よりよい表紙にふさわしいタイトルや名前があれば
- 左開きの冊子にふさわしい縦書きのタイトルも視野に入れる。

2P・・・「かめまるくんとしんがくんの議会トーク」

- ■月議会の概要がよくわかるもの、子どもでも読んでわかるものを意識して
- あまり詰め込まない。余白を十分にとる。

3P・・・基本は広聴活動のページ 場合によっては議会トピックスとして特集を組むこともあり

- 議会活動や議員について興味関心、理解を得る内容に
- 広聴部会の活動を中心に上げる。

4. 5P・・・従来から特集ページとしてきた。

- 予算、決算の議会の時はその特集とし、内容も市の広報ではない議会の徹底審査の様子が伝わるものに工夫してきた。予算、決算でない議会の時（6月議会、12月議会）は、議員や議会活動についてテーマを決めて掲載してきた。（教えて議員さん、子ども議会など議会の取り組み、わがまちトークなど市民との交流、市民からの投稿、作品紹介、市民の声・意見の掲載など）

6P～7P・・・

- 常任委員会の審査報告 ○ 討論 ○ 議決結果 ○ 議決内容 等

8P～15P・・・

- 各議員の一般質問（※3月議会は6会派の代表質問を大きめのスペースをとる）

16P...

- ■月議会を終えて(議長・副議長・監査が順番でしていたが、今後どうするか?)
- 議会を傍聴して(これまでは、各会派に順番で依頼。コロナ禍ではネット中継視聴の感想)
➡次号からは議会モニターさんから順次コメントをもらったらどうか?
- 次回議会日程等、お知らせ○ 編集後記は掲載しない

今期の広聴部会について（総括）

<松山部会長>

- ・広聴委員のわがまちトークや議場見学会などの準備に当たり、会議等忙しい日程の中を縫って準備していただいたことに感謝したい。
- ・新型コロナウイルス蔓延前の活動からよい部分を引き継ぎつつ、新たな試みができてきたと感じるので、これまでのことをしっかり次期広聴部会委員に引き継いでいきたい。

<山木委員>

- ・わがまちトークにはじめて参加したが、普段の活動内ではあまりお話する機会がない方々から意見をいただくことができて非常に有意義であった。
- ・議場見学会については、参加を応募される方がイメージしやすいように、写真だけではなく動画でも記録しておいたほうがよいと感じる。委員間でも活動の様子を共有しやすいと思うので次回開催時に検討していただきたい。

<林委員>

- ・広聴部会委員として議会広聴活動に携わり多くの方々から様々な意見を聞くことができ、自分自身も成長を感じる１年間であった。来年以降もより多くの方々から意見をいただけるような取組を実施していただければよいと思う。

<片山委員>

- ・自分自身議員在職歴が浅く、市民目線に立つと、議会は少しとっつきにくくかけ離れたイメージであったので、直接お話しする機会がいただけて新たな発見もあり、よい勉強となった。
- ・議会からの広報等アプローチの方法が重要であり、今後力を入れていただければと思う。

<大塚委員長>

- ・わがまちトークについては、形式を変更したことで自由に意見を語っていただくことができ、一つの大きな成果であったと考えている。
- ・議場見学会については、参加された子どもたちにとって楽しんで学んでもらえるよい機会を創出できたと感じた。

令和6年度広聴部会申し送り事項

➤ わがまちトークについて

- 今後も自治会及び各種団体を対象に開催する。
 - ◇ 実施形式は、令和6年度開催時同様の小グループ形式で行い、適宜模造紙や付箋を用いる。
 - ◇ 相手方に提案いただいたテーマについて、事前に方向性をすり合わせておく。
 - ◇ 意見交換会への導入として、アイスブレイクの時間を設ける。
 - ◇ より話しやすい雰囲気づくりに努める。(飲み物を出すなど)
 - ◇ いただいた意見は、各常任委員会に振り分けず、全議員に共有することとする。また、議会活動として受ける意見のため、議員個々で動いて解決していくことは避ける。
 - ◇ 各常任委員会からの応援議員については、広報広聴委員のみで対応するか否か今後の協議の中で検討する。
 - ◇ アンケートの内容については、より簡略化し、議会への意見を記入いただけるよう改善する。
Ex) ×「市政の課題で関心のあること」
 - ◇ 令和6年度に開催した3回のうち、応募により参加されたのは1団体のみであったため、自ら手を上げて参加していただけるような仕組みの構築を図る。
 - ◇ その他いただいたアンケートや協議記録などを参考に活動に当たる。

➤ 議場見学会について

- 今後も議場見学会を継続実施する。
 - ◇ 小学生全学年の児童を対象としていたが、低学年と高学年では、知識量や行動意識が異なるため、対象者について再考する。
 - ◇ 議会から乖離せず、小学生にとって馴染みのある事柄を取り入れる。
 - ◇ 広報の方法について、これまで「市のLINE」「市議会ホームページ」「市議会だより」を活用してきたが、どなたでも参加したいと思えるような方法を模索する。
 - ◇ アンケートを参加者と同伴者で別々の内容とするかどうか協議する。
 - ◇ 喜んでいただける参加証について考える。
 - ◇ 活動の様子を記録するにあたり、動画や写真を繋げたショートムービーの作成など、参加したことのない方々がイメージしやすく参加したいと思えるような広報及び活動報告をする。
 - ◇ その他いただいたアンケートや協議記録などを参考に活動に当たる。

➤ その他の広聴活動について

- 必要に応じて、街頭インタビューなどの活動を行い、市民の意見を聴収する機会を設ける。
 - ◇ 開かれた議会として、より身近に感じていただけるような取組を検討する。